演劇的手法が高校生の自己認知, 対人認知に与える影響

中田貴子

(関西大学大学院心理学研究科; 現所属 大阪府立阿倍野高等学校)

キーワード: ドラマセラピー, 相対性自己卑下, 身体性

The effect of dramatic technique on self-cognition and interpersonal cognition of high school students

Takako NAKATA

(Graduate School of Psychology, Kansai Univ. ; Abeno High School)

Key Words: drama therapy, relative self-effacement, physicality

目 的

近年, コミュニケーション力や表現力養成, あるいは癒しを目的として, ドラマのもつ力が注目され, 高校普通科での「演劇」の授業, 震災後の PTSD ケアなど多岐にわたる分野で利用されている。これまでも発達障害者へのロールプレイングや認知症高齢者やトラウマを抱えた者へのサイコドラマ, サイコドラマ技法をもちいた教授法などの質的研究, プレイバックシアターによる気分の変化の測定など様々な研究があるが(八島・池本, 2012), いずれも効果測定の難しさから, 演劇的な手法が認知や情動の変化にどう影響しているかを実証したものではない。

一方, 日本人の青年期の特徴として自己卑下傾向が指摘されている。遠藤(1997)は, 大学生を対象とした親友関係において高揚傾向, 相対的自己卑下傾向があることを明らかにした。また, 遠藤(1992)は, こうなりたくないという“負の理想自己”が自尊心との関わりが強いことも示した。

本研究では, 「演劇的手法」としてドラマセラピーで使われる技法(Emunah, 1994)を用い, 教育的分野での利用を目的として, 対人関係初期において演劇的手法を使ったワークが, 高校生の自己認知, 対人認知にどのような影響を与えるかを検討した。高校生においては, 関係初期の相手に対して相対的自己卑下傾向が見られると仮定し, 身体性を伴う演劇的ワークによってその自己卑下傾向が緩和され, 自己評価と他者評価が近づくという仮説を立てた。

方 法

参加者は高校生 104 名(男子 25 名, 女子 79 名, 平均 16.63 歳, SD=1.00), 内, 実験群 60 名(男子 13 名, 女子 47 名), 比較対照群 44 名(男子 12 名, 女子 32 名)であった。実験参加の承諾を得た者に 2013 年 8 月から 11 月に実施した。

実験群には演劇的ワークを実施し, 顔を見知っている, あるいは相手の所属ははっきりわかっているが, 深くは知らない他校の同性の生徒とペアを組ませた。比較対照群には実験群のワークと同時期, 自己紹介と雑談をもらった。

ワーク前に次の質問紙を配布した。①日本語版情動伝染尺度(「喜び」2 項目, 「悲しみ」3 項目 4 件法)。②自分から見た自分の性格特性尺度(内田, 2002 から 20 項目 5 件法)。③対人関係尺度(高井, 1999 の 28 項目から因子負荷量の大きい 17 項目 5 件法)。④ペアの相手に対する印象 20 項目 5 件法(②に同じ)。また, ワーク後に⑤ペアの相手に対する印象(④に同じ)。⑥自分の性格特性(②に同じ)に回答してもらった。

結 果

ワーク前後の自己の性格, 他者の性格認知を Figure1 に示した。前後いずれの場合も相対的自己卑下が見られ, 自分の性格を低く見積もっていた。また, 他者と自己の評価得点の差を自己卑下傾向として事前事後で t 検定を行ったところ, 実

験群ではワーク前後で有意な差が見られた($t[59]=2.83$, $p=.006$)。比較対照群において有意差は見られなかった。

考 察

高校生が対人関係初期において相対的自己卑下傾向をもつことが再確認された。また身体的コミュニケーションを伴う演劇的ワークが自己卑下傾向緩和に繋がり, 自己評価・他者評価の差を減少させることが示された。本研究では演劇的手法のどの要因が最も重要か, 身体活動のどのような特徴が鍵かは明らかではない。今後の課題としたい。

引用文献

- Emunah, R. (1994). *Acting for real: Drama therapy process, technique, and performance*. (尾上明代訳 2007 ドラマセラピーのプロセス・技法・上演 北大路書房)
- 遠藤由美 (1992). 自己評価基準としての負の理想自己. 心理学研究, 63(3), 214-217.
- 遠藤由美 (1997). 親密な関係性における高揚と相対性自己卑下. 心理学研究, 68(5), 387-395.
- 高井範子(1999). 対人関係性の視点による生き方態度の発達的研究. 教育心理学研究, 47, 317-327.
- 内田照久(2002). 音声の発話速度が話者の性格印象に与える影響. 心理学研究, 73(2), 131-139.
- 八島慎宏・池本喜代正 (2012). ロールプレイングを活用した個別支援と集団適応支援に関する実践研究. 宇都宮大学教育実践センター紀要, 35, 133-140.